

## 環境ベテランズフォーラム Webセミナー

### 講演テーマ：「コロナ禍の英国事情」 ～Brexitの動向、政治、経済、社会、スポーツの現状～

講師： フラントコンサルタント・スポーツマネジメント(@ロンドン)事業 主宰 伊藤 庸夫 様

#### 講師略歴：

- サッカーの名門浦和高校卒業、当時関西サッカーの三強であった京都大学に進学、法学部にて国際法を習得。
- 1966年 三菱重工業入社。社長室企画部、社長室開発部、化学フロント部、社長室海外部を歴任。同社サッカー部(日本リーグ)に所属。1980年 同社ロンドン事務所。日本サッカー協会(JFA)国際委員。1985年 東芝 International UK。1989年 TMITO Ltd.UK M,Dとして、ロンドンにてフラントコンサルタント・スポーツマネジメント事業を開始。
- サッカー界においては、JFA国際委員(欧州代表)、Jリーグ発足準備委員会委員、Jリーグサンフレッチェ広島海外担当強化部長・W杯用スタジアム設計建設コンペ審査員(1994年)、京都大学蹴球部 Technical Adviser(2004年)、JFLチーム SAGAWA SHIGA FCのGM・JFL評議員議長(2007年)、JFAマッチコミッショナー(2010年)を歴任。新聞・雑誌記者として、各国サッカーリーグ・W杯・EURO杯や、ラグビーW杯、ウインブルドンテニス等を取材。テレビ東京・日テレ・NHK等に解説者として出演。
- 英国のBath Univ、Essex Univ、London City Univ非常勤講師。筑波大学大学院 英国のスポーツと文化 非常勤講師(2003年)、びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツマネジメント教授、淑徳大学 非常勤講師(2004年)
- 東京生まれ(本籍滋賀県)で、ロンドンには1980年から延べ40年在住。訪問国は86か国にのぼる。

# コロナ禍の英国事情

Brexitの動向・政治・経済・社会・スポーツの現状

2022年3月17日 伊藤庸夫



# 英国の概要

\* **国名**: United Kingdom of Great Britain & Northern Ireland (略UK又はGB)

**人口**: 68,380千人(2021年) 外国生まれ移民9.9百万人—14%

**ロンドン人口**: 7,556千人 うち移民人口比: 37%

**平均寿命**: 男80.2歳、女83.3歳

移民人口	Indian	Polish	Pakistan	Ireland	Rumania	Germany
2021年	880	691	479		345	
2017年	824	922	522	415	390	318



**国土**: 面積244,820km<sup>2</sup> (日本の65%): 可住地88%--日本の1.7倍、土地は国有(リース権)=都市計画容易。

**緑の国**: 公園の国: ロンドン26.9m<sup>2</sup>/人 ☺ 東京は2.9m<sup>2</sup>/人) Park とGarden

\* **国情**: 立憲君主国: 英連邦(Commonwealth)

\* 三権分立: 立法、行政、司法(最高裁は2009年10月発足)

\* 慣習法(Common Law): 憲法はない。

\* 議会は2院制—House of Common(下院=選挙)、House of Lord(上院=任命)

国王女王は“The Queen reign but does not govern”

首相Prime Ministerは議会多数派党から選挙で選ばれる。現在Boris Johnson

\* England以外にWales(1997年)Scotland(1998年)Northern Ireland(1998年) 独自( )

\* ロンドン市長はMP(英国議会の議員兼務可)--現在のMayorは労働党議員:Sadiq Kahn(移民)

\* 福祉国家:”揺り籠から墓場まで“公立無料(大学は有料)、医療無料、公共交通無料(65歳以上)

\* 英語: Queen’s English(アクセント; Cockney, Geordie, Scouse, Welsh etc.)

\* 国民性: スポーツ好き: Football, Cricket, Rugby, Snooker etc.(階層による)

嘘をつかない、沈黙は悪、Joke、Hospitality、Common sense、Holiday

Teaの国、Pub, Cinema & Theatre、秩序(行列)

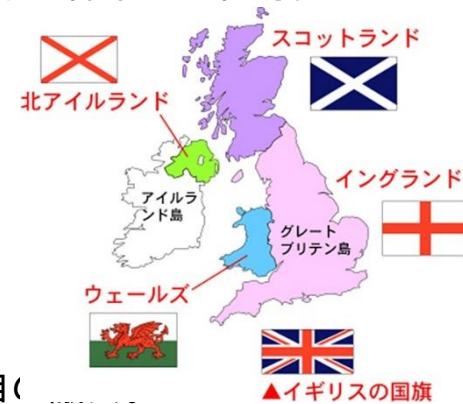
\* **教育制度**: 5歳から6-5-2-3(4)制: グレード評価、科目別学科試験(GCSE=16歳)(A Level=18歳)

(卒業=Graduationは大学のみ)

義務教育は11年、16歳まで。大学以外は公立無料。大学進学率50.2%(2017・18)

大学入学資格: GCSE 5科目、Aレベル内3科目以上グレードA,B,C以内取得+教授面接

\* **企業、会計制度**: 職能主義、PLC(Public Limited Company=上場会社)、Invoice 主義、会計年度4月6日



# 英国の現状

- ① Brexit
- ② コロナ蔓延 そしてLiving with Covid !
- ③ 英国の近未来展望(ウクライナ紛争の影響)



# 英国の現状

- ① Brexit
- ② コロナ蔓延 そしてLiving with Covid !
- ③ 英国の近未来展望(ウクライナ紛争の影響)



## (A)The EU Withdrawalの経過

1975年英国EEC加盟

2016年6月23日EU脱退国民投票:52%離脱賛成(PM Cameron)

**焦点:主権(Sovereignty)、移民難民、Union(関税)課徴金問題、国境問題等**

2018年7月12日 PM May: Chequers Plan設定、11月14日 EUと離脱案合意

2019年3月21日 議会の批准取れず離脱延期、7月PM May辞任; Boris Johnson 首相

12月12日 総選挙:保守党勝利(365議席過半数取得):20年12月末離脱目標

2020年1月31日 EU離脱案(Withdrawal)議会承認:英国EUと離脱合意(2020年12月31日離脱予定)

2022年1月31日 移行期間2年を経て英国EUから完全離脱(EU Lawの影響排除)



## (B)今後の課題

(1) 北Ireland(UK)とIreland(EU)との貿易関税問題、輸出入手続き問題、国境問題

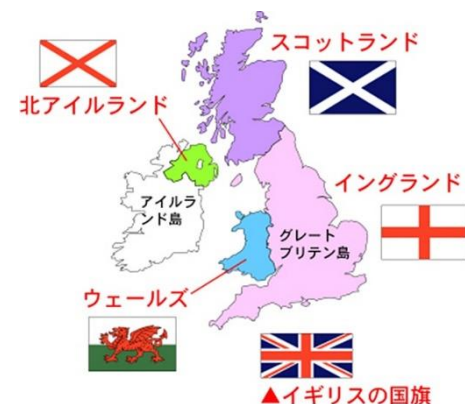
(2) 移民難民制限と労働者不足問題:物流、酪農等

(3) 諸外国との貿易協定(米、豪、印、日、NZ等)



## (C) Brexit後の英国展望 (AS of 2022年2月18日)

1. 離脱の利点: すべての事項につきEUの承認なく決定できる、
  - \* Sovereignty (国家主権の堅持)
  - \* 自由貿易協定—EU, USA, Japan, Australia, India, TPP等
  - \* 移民、難民の制限
2. 経済面: 経済成長率は堅調: 2021年GDP7.5%Up,  
インフレ加速: 2022年1月5.5%、2022年予想4.7%Up、23年度予想2.3%  
食料品物価: 22年1月前月比1.5%Up  
BOE金利: 0.25%から0.5%に。  
株式市場FTSE100: 2022年2月19日: 7513.62と堅調  
失業者数は不変: 4%前後  
住宅需要上昇  
電気自動車(EV)への転換、電気チャージャーの設置数を拡大、蓄電池を年30万台EV用に(BritishVolt)  
Energy Cost Up
3. 社会面: 度量法復活: 重量(KgからPound, Stone、mlからPint等) 距離(Inch, Feet, Mile)
4. スポーツ面: EU Passport 所持選手にWork Permit必要となる。Common Wealth大会の充実
5. Brexitの課題: ①北アイルランド国境問題 貿易関税問題  
②漁業問題(フランスとの競合)  
③移民数減と労働者不足問題  
ガソリン不足=大型トラック運転者不足  
EUからの食料品不足(酪農問題)、CO2不足  
④EU居住の英国国民130万人の権利が抹消される。(EU裁判所判断)



① Brexit

② コロナ蔓延・そしてLiving with Covid !

③ 英国の近未来展望(ウクライナ紛争の影響)

## (A) 蔓延経過

2020年	3月23日	第1次Lockdown (Case:5150人/日) Social distancing, Tel-work等々 罰金制度、陽性者14日間隔離、学校閉鎖等
	9月23日	:第2次Lockdown (Case:6000人超) コロナ対策条例通達 * Curfew=Pub, Restaurant 営業22時まで。罰金、無観客試合
2021年	1月8日	Case:71,285人/日記録
	2月22日	B.J首相、コロナLockdown解除のRoad Map発表 ・Step 1A(3月8日) :学校再開、Stay at Home ・Step 1B(3月29日) :屋外スポーツ再開、6人までの面会許可等 ・Step 2 (4月12日) :図書館,ジム、レストラン(屋外)Open等 ・Step 3 (5月17日) :屋外での6人までの会合、ホテル、劇場Open,スポーツ(屋内千人、 屋外4千人) ・Step 4 (6月21日) :Lockdown解除予定——1週間の1日当たり感染者が7千人を超え 7月19日まで延期。この時点で4600万人(67%)がワクチン接種済 9月25日ワクチン接種者数:4870万人(成人の90%)
2022年	1月4日	オミクロン変異種蔓延によりCase:229,622 人と最高値を更新。
	2月19日	Case 34,377人に減少(日本は81,621人と増加)
	2月24日	<b>Case 38,933人、死者数125人となりEnglandはコロナ対策制限を撤廃した。 Living with Covid Plan.</b> (Scotlandは2月28日、Walesは3月28日解除予定)
	3月9日まで	英国コロナ患者、死者数: Case:19,307,014人(世界5位) Death: 162,359人

## (B) 英国医療制度

英国医療制度			
①	組織	Dept. of Health & Social Care (保健省)	NHS (National Health Services)
			National Insurance (国民皆保険)
			GP (General Practitioner=国民全員掛かり付け登録医)
			NHS Hospital, Clinic, A & E (Aid and Emergency=救急)
			NHS Pharmacy (薬局)
②	個人	National Insurance 皆保険制度: 国民全員 National Insurance No. (NI番号) 保有義務	
		費用は国民各自負担 (所得から約10%源泉される) — 将来引退後の年金番号となる	
		更に医療機関 (GP, Clinic, 病院) の登録番号 (National Health No.) が付与される	
③	医療費	原則無料 (全額国NHS負担)	
		Private Hospital、Clinic等の医療機関も存在する。但し有料 そのための保険あり— (例) BUPA— 年間£4,000以上— 企業負担もある	
④	薬局	GPからの処方箋により薬も原則無料	
⑤	アポイント制	A & E以外は全てアポイント制であり、まずはGP診断後次に専門医、大病院をGPから紹介状診断	
		定期的検査の通知はGPから来る	



## (B) 英国医療制度

### スポーツ医療: Physiotherapist 養成教育機関

①	Junior(5-11歳)ジュニアユース(11-15歳)ユース(16-18歳)アマ、プロ登録チーム試合にはDoctor 又はPhysiotherapist(フィジオ)を帯同する義務あり。	
②	Physiotherapistの資格条件	1) 学位Physiotherapy取得が必要
		2) CSP(Chartered Society of Physiotherapy)フィジオ学会会員になること
		3) 現場での研修経験を経て独立 スポーツクラブ、スポーツ団体、学校等教育機関、病院、 介護、リハビリ、等
		4) 治療、注射、応急手術も可
③	プロ(Football, Rugby 等)のPhysioの役目は怪我治療、試合出場可否の権限あり	

## (C) 英国政府のコロナ対策

### 1. NHS 一本立の医療体制と行政

- 政府NHSの諮問機関としてのSAGE (Scientific Advisory Group for Emergencies)  
(英国政府コロナ疾病に関する科学的諮問委員会ヘッドアドバイザー; Sir Patrick Vallance)
- ワクチン開発と調達: 英国製ワクチンAstra Zeneca, 及びPfizer, Moderna
- ワクチン接種者数: 2022年3月6日現在: #1接種: 52,650千人(人口比91%)  
#2接種: 49,061千人(85%)  
#3接種: 38,312千人(67%)
- 2022年秋には#4接種+インフルエンザ接種を予定

### 2. 経済対策:

#### Job retention scheme (雇用保持政策) と就業補償制度の導入

\* Furlough Scheme: 2020年3月から2021年9月まで: 月額£2500を上限、報酬+国民保険+年金保険を政府が補償する。約960万人が受給した。

\* Curfewの徹底、スポーツの無観客試合、公共交通機関の定員減(バス)、違反者への罰金制度  
Social Bubbleの徹底、Stay Home (Online work) の徹底、等

VAT減額: 20%が5%に。特にHospitality, Tourism産業を中心に。

Covid 対策予算は2020年度£190 Billion=25兆7千億円相当。

- ① Brexit
- ② コロナ蔓延・そしてLiving with Covid !

### ③ 英国の近未来展望(ウクライナ紛争の影響)

#### \* Living with Corona

- \* ワクチン接種: 毎年秋インフルエンザと同時接種へ PCRテストの有料化、
- \* 規制なき一般生活 へ  
スポーツ、演劇、映画、音楽会等の有観客化Pub, Restaurant等Open  
Vaccine Passport(ワクチン接種証明書)提示不要

#### \* Ukraine紛争の行方と英国

- \* エネルギーコストの大幅UP: 22年3月9日現在原油先物相場: \$ 123.70/BL  
英国内ガソリン価格 $\pounds$  1.70/l(=255円)に、(ロシアガス依存度は5%)  
(EUは40%依存、ドイツは50%依存。)  
電力コストの高騰(家庭電力年間 $\pounds$  1300が $\pounds$  2000なる見込み)
- \* 小麦、コーン、ニッケル、銅、鉄鉱石等ロシア依存度が高い。
- \* インフレ率は4月には8.2%となり2022年は6.5%になる見込み
- \* FTSE100は3月7日急落し、6, 959.48となる。(2月19日の7,513.62から7%下落)

\* 英国議会保守党支持率がジョンソン首相によるPartygate(コロナ禍でのParty主催)により支持率は31%(労働党は41%)に下落、今後の政局に影を落としている。後任争いには国務大臣のJakob Rees Moggとか財務大臣のRishi Sunakの名が挙がっている。

Ⓢ ジョズブル英国人の叡智と行動力に期待！！

# Thank you very much ! Any questions !